

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こ みち
教育の小径No.61
11月号
2013 November

今月のことば

天高く
馬肥ゆる秋

秋の空は高く感じられるほど綺麗に澄みわたり、馬も肥えるような収穫の秋であるという意味です。秋の季節の素晴らしさをいい、手紙など時候の挨拶として使われます。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

教師の言語活動は充実しているか

- 授業は子どもと教師の言語活動そのものだと言えます。子どもの言語活動を充実させるためには、教師の言語活動の充実が不可欠です。
- 教師の「話す」「聞く」「書く」「読む」活動を充実させることによって、教室の言語環境が豊かになり、授業そのものが充実します。

今月の記念日

灯台記念日(11月1日)

神奈川県横須賀市の観音埼灯台は、わが国最初の洋式灯台です。この灯台の起工日が明治元年(1868年)の新暦で言う11月1日でした。この日にちなんで昭和21年に海上保安庁が制定しました。

授業は言語活動そのもの

多くの学校では、校内研修(研究)のテーマに「言語活動の充実」を掲げて授業改善を進めています。そこではほとんどが「子どもの言語活動」に焦点を当てた研修や研究の内容になっています。学習指導要領総則にも「児童の言語活動を充実する」と示されていますから、的を得た取り組みだと言えます。子どもの言語に関する能力を育成することは、これからもさらに重視していきたい課題です。

言語を使った営みが言語活動です。授業は、言語という手段(ツール)を使って教師と子どもたちとの間で協同的に展開されています。その意味で、授業は子どもたちと教師で営まれる言語活動そのものだとも言えます。

子どもの言語活動を充実させようとするとき、どうしても「子ども」に焦点を当てた取り組みになりがちです。ノートの書き方、話の仕方、発表の仕方、文章の読み取り方など、いずれも子どもの言語活動が対象になっています。しかし、これらの言語活動はいずれも教師からの直接的、間接的な影響を受けながら行われています。それは主に教師の言語活動です。

このことは、単に「子ども」だけを

対象に研修・研究するのではなく、併せて「教師の」言語活動のあり方についても吟味・検討することが、「子どもの言語活動」の充実につながることを意味しています。

教師による4つの言語活動

授業中の教師の言語活動を大別すると、子どもと同様に、話す、聞く、書く、読むといった4つの活動があります。「授業」はこれらが相互に関連し合いながら展開されています。

これらの中でもメインは話す活動でしょう。主なものは説明や解説、発問や指示、助言などです。1単位時間に教師はどれくらいの言語を発しているのでしょうか。相当な時間と量であるに違いありません。教師の「話す力」「話す内容」は授業の質を大きく左右します。子どもの学力形成にも大きな影響を及ぼします。

教師が発問などをしながら話しかけている場面では、子どもの発言や疑問などを聞く活動が一体的に行われています。子どもの何気ないつぶやきに耳を傾け、発言内容の真意をくみ取る力が求められます。子どもは教師の聞く姿勢を敏感に感じ取ります。受容的、共感的に受けとめたいものです。

教師は、重要事項や発言した内容の

要点を黒板に書きます。それによって子どもは思考を促したり理解を深めたりします。「板書はもうひとつの教材」「板書を見れば、授業がわかる」と言われる所以です。子どものノートや作品などに朱書きもします。書かれた内容によって子どもは自信をつけ、やる気を起こします。

さらに、教師は教科書の文章を範読するなど読む活動も行っています。

教師の言語活動は学習環境

教師の言語活動は、子どもたちにとって教室における重要な学習環境であると言えます。授業においては、教師の言語活動がひとつのモデルとしての役割を発揮しているからです。

教師の言葉遣いは、子どもの学習意欲や人格形成に大きな影響を及ぼします。教師が乱暴に板書すると、子どもたちが書く文字も乱暴になると言います。楷書で丁寧な書くと、子どももそれを真似ます。教師の書き方、話し方は善きにつけ悪しきにつけ子どもたちにも乗り移ります。

子どもたちの言語活動を充実させ、言語に関する能力を育むためには、まずもって教師自身が日々の教育活動や授業において豊かな言語活動を展開することが求められます。

アリとトンビとトンボ

保護者会で子どもの育て方について話すときや、PTAなどの会合の席で発言を求められたときなど、担任としてどのようなことを話せばよいのか、戸惑うことがあります。本欄では今月号から「保護者会で使える話材」を紹介していきます。

* * *

「アリとトンビとトンボ」とは、保護者として子どもを観察したり理解したりするとき、三つの「眼（見方）」をもつことが大切であることを比喩的に表現しているものです。

まず「アリの眼」です。アリは地上や地中を歩き回りながら、細かなものをつぶさに観察しています。アリのように、子どもの何気ない振る舞い、小さな行動や発言などに気を配ります。心や表情に起こった小さな動きを敏感に感じ取る繊細さが求められます。子どもを微視的に観察する眼です。

次は「トンビの眼」です。トンビは空高く悠々と飛びながら、地上を広く見渡しています。子どもの成長・発達状況を観察・理解するとき、トンビのように一定の距離をおいて巨視的にとらえることも大切です。一人の人間として総合的にとらえる視点です。

そしていま一つは「トンボの眼」です。トンボは複眼をもっています。これは子どもを複数の見方で多面的に観察することです。父母、叔父叔母など複数の人が観察することによって、一人では気づかなかった子どものよさや取り柄が見えてきます。

アリの眼（微視的に）、トンビの眼（巨視的に）、そしてトンボの眼（多面的に）は、子どもを育てていくとき大切にしたい見方だと言えます。

読書活動の推進

文部科学省は、平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づいて、平成25年5月「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を国会に報告しました。

ここでは、これまでの第二次基本計画期間における取り組みと成果や今後の基本的方針、子どもの読書活動の効果的な推進に必要な事項について示されています。

このあとに、子どもの読書活動の推進のための方策について述べられています。ここでは、「全ての子どもの読書活動を支援し、読書指導を充実する

ことにより、読書の量を増やすことのみならず、読書の質をも高めていくこと」が重要であると、学校教育の役割を示しています。

これを受け、学校における取り組みとして、①子どもの読書習慣の確立・読書指導の充実、②障害のある子どもの読書活動の推進、③家庭・地域との連携による読書活動の推進をあげています。また学校図書館の機能強化として、①学校図書館の資料、施設、情報化の整備・充実、②司書教諭や学校図書館担当職員（いわゆる学校司書）など人的配置の推進を求めています。

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成するため、学校における読書活動を充実させることが一層求められています。

コラム 北 俊夫の「3.11」体験談(1)

そのとき、どこに？

平成23年（2011年）3月11日午後2時46分に、三陸沖を震源地とするマグチニュード9.0の巨大な地震が発生しました。それに伴って大きな津波が発生し、東日本の太平洋沿岸に甚大な被害が出ました。死者は1万5883人、今も行方不明になっている方は2652人もいます。（平成25年10月10日、警察庁まとめ）

犠牲になられた方々に心からご冥福をお祈りいたします。

私の自宅のあるさいたま市の浦和区は震度が「5強」だったと後で知りました。自宅にいた家族から、これまでに経験したことのない揺れと恐さだったと聞きました。

私は前日から長崎県の小学校に出張中でした。地震が起こったときは、予

定の仕事を終えたあとでした。正確には、長崎空港を午後2時40分に離陸し、羽田空港に向かっていた飛行機の中でした。ANA3738便、SNA（スカイネットアジア航空）との共同運行便で、当機はソラシドエアの機材でした。SNAは、羽田空港と宮崎、熊本、鹿児島、大分、長崎の九州の各空港と結んでいる会社です。羽田空港着は午後4時15分の予定でした。地震が起きたときには、陸地を離れていたために、私はあの激しい揺れを経験していません。

ところが、その後、私にとって思いも寄らない数々の「貴重な」体験をすることになります。

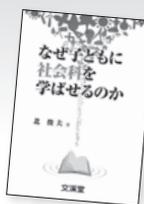
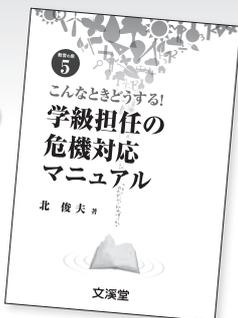
本欄では次回から、このあと私が自宅に帰るまでに体験したさまざまなことを順に紹介していきます。これは私の「3.11」体験談です。

INFORMATION

北先生の最新刊

こんなときどうする！
学校担任の危機対応マニュアル

◎著者 北 俊夫
◎定価 998円(税込)
◎発行 株式会社文溪堂
A5判 96ページ



A5判 104ページ

なぜ子どもに
社会科を
学ばせるのか

言語活動は
授業をどう変えるか

—考え方と実践のヒント—



A5判 112ページ

編集後記

先生方のご支持をいただき、小誌も今号で6年目に入りました。誌面も少し模様替えを行い、新コーナー「保護者会で使える話材」がスタートしました。保護者会で話題にし、話し合いを活性化するネタにしてはどうでしょうか。北先生の「3.11」体験談もご期待ください。（T記）



企画・編集：ぶんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2013年11月1日